

私の勤務先は、令和元年が始まった2019年5月1日に隣地の新しい建物に移転した。その際、電子カルテシステム移転の責任者を拝命し、電子カルテのユーザーからシステムを考える立場になった。

筆者が医師になったころ（平成元年）の研修医の重要な仕事の一つは、検査伝票作成とカルテへの検査結果貼りであった。当時の患者さんは、カルテ倉庫から紙カルテが担当医に届くまで診察を待つ必要があり、診察後も伝票をもとにした手計算での会計に時間がかかっていた。研修医は事務仕事に明け暮れ、患者さんにとって通院は一日仕事であった。電子化はこれらを大幅に改善した。検査や処方オーダーなどの必要事項を入力すると、瞬時に各部署で情報が共有され、検体の採取・測定、薬剤の調剤、点滴や軟膏などの処置が行われて、検査結果は画面で確認でき、費用は自動的に会計に反映される。カルテの電子化は、スペースと時間の大幅な削減をもたらした。

新病院では、患者さんは機械で受付と保険証確認をした後、待合へ移動して診察を待つ。順番が近づくと、登録した携帯にメールが届き、待合の掲示板に番号が出て、診察室前に移動。順番がくると診察室前に番号が掲示され、診察室に入室。ここで初めて人（医師）に接する。その後診察が終わると、自動会計機にカードを入れて、支払いを済ませて病院を出る。処置や検査などがあれば、看護師や検査技師が対応する。しかし、診察だけであれば医師以外の人に関わることがない。当初は患者さんからの苦情が不安だった。しかし、実際にかかりつけの患者さんに聞くと、初回はとまどったが2回目からは簡単、と評判は良好である。

ユーザーにはブラックボックスになっているが、システムの側からみると、電子カルテが中心となり、その周辺に各種検査機器、治療機器、受付、会計などの多くの部門システムが関わっている。機器やソフトの動作、機器をつなぐ物理的な配線や、電子的な認証などのすべてが一体化して機能していないと、病院の巨大なシステムは稼働しない。パラメディカルの方々が細かいところまで確認して、部門システムを作り上げてくれた。振り返ってみると、診療も同じであった。看護師、検査技師、医療事務などのスタッフが患者の目に見えないところで連携を取り合い、患者さんにとって最大のアウトカムをもたらしてくれている。情報システム委員長になって、チーム医療を痛感した。

（林 伸和）

— 顧 問 —

大原 國章 大塚 藤男

— 編集委員 —

土田 哲也 五十嵐 敦之 相馬 良直 林 伸和 佐伯 秀久

「皮膚科の臨床」第61巻 第9号 8月号 2019年8月1日発行（毎月1回1日発行） 定 価（本体 2,700 円＋税） 年間購読料金 定価（本体 42,100 円＋税） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村 直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14 TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03(3813) 0288 ホームページ http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005 広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600
---	---

- 本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

- JCOPY＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつと事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。